規制対応は進化する

~RegTechが金融機関にもたらす未来



明保能 弘地 2010年入社 金融サービス本部 ファイナンス&リスクサービス シニア・マネジャー

I. RegTech概要

2015年のUK Chief Scientific Advisor reportによると、RegTechは"フィンテックは、金融規制やレポーティングの透明性、効率、有効性を高める潜在的能力を秘めており、これにより創造される新しい規制対応に対するメカニズム"と記述されている。つまり、RegTechはフィンテックと並立する存在ではなく、規制対応を考慮したフィンテック技術の組み合わせということができる。

RegTechの特徴は規制当局側にあたる政府機関が発信したということだ。フィンテックのみならず新技術は革新的なサービスを提供できる反面、既存の規制が障壁となる。規制当局側が積極的に新技術に対して歩み寄り、金融機関・ベンダー側と協力体制を取る方向にあることは、RegTechの最大の利点と言える。

1. 規制対応で認識される課題

英国の金融行動監視機構(Financial

「RegTech」とは、「Regulatory(規制)」と「Technology(技術)」を組み合わせて作られた造語で、フィンテックを使って規制対応に関する課題を解決するアプローチの総称だ。

昨今、金融機関に対する規制強化は複雑化の一途を見せており、各機関は多額の投資を伴いながらその対応を行っている。規制強化を加速させたのが2008年に世界経済へ大きな打撃を与えたリーマンショックである。以降、多数の規制が発行されている。金融機関においては、増大する規制の解釈および追加業務・システムからのコスト増が課題視され始めている。

RegTechは、規制対応の自動化、規制の曖昧さの排除などの視点から様々な 取組が行われており、実用化されれば規制対応の在り方を大きく変える事に なるであろうと思われる。このような取り組みを紹介しながら、規制対応の 将来像を予測したい。

Conduct Authority)は、2015年金融ビジネスに関連する企業に対してRegTechに関するアンケートを行った。そこから読み取れる規制対応に対する課題を以下にまとめた。

A. 規制の解釈にかかる課題

規制は、文書で発行されるが曖昧な部分 も多く、その解釈には大きな労力がさか れる。その曖昧さは規制当局と規制対象 機関との認識相違を招く。各機関が独自 の解釈を行うが、その解釈を共有するこ とは難しく、機関により対応が異なる場 合がある。この対応の不整合は規制がも たらす効果の阻害要因となる。

B. 規制数における課題

大小様々な規制が続々と発行されており、規制対象機関は日々その対応に追われている。2009年以降、現在までに金融業界全体の規制数は5倍にも増加していると言われており、スケジュールも厳しい。対応の効率化は不可避である。

2. RegTechの対応領域分類

前述のアンケートは350社(テクノロジー関連43%・金融機関23%・コンサル関連23%)からの回答を得て2016年7月にレポートを発表した。

その中で、RegTechのもたらす領域が4つに分類されて紹介されている。(図表1)

- ・ 金融機関間で情報共有を効率化させる テクノロジー
- 規制の意図と解釈のギャップを埋める テクノロジー
- データの正規化により、より良い経営 判断・自動化適用を促すテクノロジー
- 規制対応に別の視点を持ち込むテクノ ロジー

II. RegTech事例紹介

規制遵守は金融機関にとって欠かせざる 義務である。一方で、増大する規制対応 コスト(業務・システム)をいかにして

1. 金融機関間で情報共有を効率化させるテクノロジー

代替レポーティ

新システムの導 入によりより柔 軟なレポーティン グプロセスを実 現、規制報告を 効率化。

クラウド導入 インターネット経 由のオンデマン ドサービスの利 用により得られ る柔軟性は、業 務の効率化・コス

ト削減を促す。

シェアドユーティ 業界共通のデー タのシェアド サービス化によ

る規制対応コス

ト削減、柔軟性

の拡大。

オンラインプラッ 当局と規制に関 するコミュニケー ションを図って 構築されたシス テム導入により、 規制への早期適 用を促す。

2. 規制の意図と解釈のギャップを埋めるテクノロジー

セマンティックテ 規制文書をコン ピュータ言語に 読み替える技術 の導入により、規 制の意図と解釈 の乖離と低減。

共通APIの導入 システム間の情 報連携の共通化 を促し、接続時 のコスト削減・効 率化を促す。

バイオメトリクス

生体認証技術の

導入により、より

効率的な個人認

証が可能となる。

データ項目の共

規制に関するデー タ項目の構造・名 称の共涌化によ り、規制対応の効 率化・曖昧さの排 除を図る。

当局による規制 に対するロボハ ンドブックの導 入。当局と規制 対象との相互理 解を深め曖昧さ

A.規制の解釈にかかる課題:曖昧さの排除・規制理解の統一 B.規制数における課題:規制対応の効率化

ビッグデータア リティクス

複数のデータに 対してビッグデー タアナリティクス を使用する事に よる新しい視点 によるビジネス ディシジョン。

モデル・可視化 クノロジ 新規制が業務に

与えるインパクト を事前にシュミ レーションしてシ ステム導入前に 事前把握。

リスク・法令遵守 モニタリング 複数データソー

スを用いての不 正取引等に関す るリアルタイムの 監視。

マシンラーニン グ・認知テクノロ ジー (AI)

データから学習 し、アルゴリズム を再構築する事 により複雑な規 制対応業務を効

Blockchain・分 分散DBで安全か

つ検証された - タをネット ワーク上に保持。 データシェアの 概念を変える可 能性がある.

組み込み型規制

規制要件が自動 ルールにコード 化されて自動適 用。規制対応を 効率化。

システムのモニタ

企業のシステム 連携を可視化。 ユーザ操作から データ連携まで 把握し、システム 間のインパクトを 扣据.

4. 規制対応に別の視点を持ち込むテクノロジー

自動化適用を促すテクノロジー

3. データの正規化により、より良い経営判断・

抑制するかは、金融機関経営にとって重 要な課題となっている。RegTechはコス トを抑えつつ規制遵守を確実とする効果 が期待できる。以下ではこれまでの金融 機関実務の枠組みを超えるような

© 2017 Accenture All rights reserved.

1. 規制解釈の標準API化

RegTech事例を紹介する。

規制対象の金融機関は大量の文章を解読 しながら解釈を行う。そして、規制当局 と解釈の確認を行いながらアクションを 定義していく。規制文章は曖昧な記述も 多く、金融機関にとって、このプロセス は大きな負担となっている。この作業負 荷を低減するべく、規制文章をコード化 するテクノロジーが注目を集めている。 言わば、規制解釈の自動化だ。具体的な 実用イメージを以下に述べる。

規制文章をアプリケーションで処理し、 コンピュータが読み込み可能なコードに 変換する。これまで規制当局との対話に より明確化されていた、解釈が難しい曖昧 な部分をコード化することで、各金融機 関コンピュータシステムが利用可能なAPI (Application Programming Interface) として提供される。APIには規制に関連 する業務領域・アクション・計算ロジッ ク・レポート要件等の規制対応に必要な ロジックが規定のフォーマットで定義さ れており、適用におけるプロセスの簡素 化・自動化に対して期待が高い。RaaP (Regulation as a Platform) と呼ばれ るこのサービスはまだまだ実験段階であ るものの熟成すれば規制対応を大幅に効

2. 規制にかかる業務の外部化

率化させる可能性を秘める。

制対応済みの共有システムに業務を移す 事で、規制に対応する考え方だ。中でも メジャーな存在であるのがKYC(Know

Your Customer/顧客確認) だ。このマネー ロンダリング・テロ資金供給の阻止を主 な目的とする規制に対して、これまで は、各金融機関が独自に口座開設時の顧 客確認手続きを行っている。KYCのプロ セスを共通化 (アウトソース) すること により、規制非遵守のリスク回避、さら に柔軟な規制変更に対する対応が実現で きるのみならず、プロセスコストの削減 も期待できる。

III. RegTechのもたらす規制の 未来

規制当局側のRegTechの適用は規制対応 プロセスに対して大きな革新をもたらす 可能性を秘めている。

自社システムを変更するのではなく、規 1. コンピュータが読み込み可能な規制 フォーマット

		規	制文章	タグ(タ	クソノミ)
		第一	章	部門	業務
			第一項	フロント オフィス	トレード管理
			第二項	フロント オフィス	時価管理
	規制①		第三項	ミドル オフィス	ポジション管理
	XBRL	第二	.章		
尺			第一項	バック オフィス	会計
規制当局			第二項	バック オフィス	リスク管理
			第三項	フロント オフィス	時価管理
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,					
		第一	章	部門	業務
	01 0		第一項	フロント オフィス	リスク管理
	規制②		第二項	バック オフィス	会計
	XBRL		第三項	ミドル オフィス	ポジション管理

部門別インパクト					
フロント オフィス	ミドル オフィス	バック オフィス			
第一項	第三項	第一項			
第二項	第三項	第二項			
第三項		第二項			
第一項					
業務別インパクト					
トレード管理	時価管理	ポジション管理			
第一項	第二項	第三項			
	第三項	第三項			
会計	リスク管理				
第一項	第二項				
第二項	第一項				

A. APIによる規制発行

前述の「規制解釈の標準API化」は文章 により規制が発行される前提においての 取り組みだ。さらに進んだ将来には、規 制自体がAPIで発行される事が期待され る。規制に変更がある場合は、このAPI が変更されることになるため、金融機関 は規制文書の解釈・すり合わせから解放 される。

B. XBRLによる規制発行

API化が困難な分野に関しては、XBRL (eXtensible Business Reporting Language) での規制発行が期待される。XBRLを使 うと規制当局によって定義された共通の タクソノミ(分類)に従って規制にタグ付 することができる。これにより、それぞ れの文章の裏に関連する「部署」、「業 務」、「金融商品」等の情報が付加され る事になる。現状では、文書を解読しな がら対応が必要な業務・システム・部署 れ、規制からは曖昧さが排除される。結 を検討しているがXBRLで発行された規果、各機関は整合性のとれた対応が可能 制では、コンピュータに読み込むことにとなる。さらに、「規制対応認定」の利 より自動で分類・インパクト分析が可能用により、規制対応コストは削減され、 となる。(図表2)

2. 規制当局によるシステム認定

「規制のかかる業務の外部化」は、規制 対応の効率化に非常に有効な手段だ。し かし、外部化することにより本当に規制 を遵守しているか確認することが難しく なる。そのため、利用するシステムの信 頼性が重要な要素となる。規制当局が 「規制対応認定」をシステムに与えれ ば、認定外部システム利用=規制順守と なる。

これらの規制環境が整えば、規制対応業 務は大幅に改善される。具体的には、規 制対象機関は規制文書の解釈から解放さ

規制対応にあたっていた人員は金融機関 競争優位に向けた業務に集中することが できる。

現時点のRegTechは、まだ初期段階であ り、規制対応は依然として従来通りの対 応が必要な場合が多い。しかし、規制当 局・規制対象機関・RegTechサービス提 供者の尽力により熟成段階を迎えた時、 規制対応の在り方は大きく変わることが 予想される。

^{© 2017} Accenture All rights reserved.